

(仮 訳)

プレス・リリース

2012 年 6 月 26 日
バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会が『実効的なリスクデータ集計とリスク報告 に関する諸原則』に係る市中協議文書を公表

バーゼル銀行監督委員会(以下、「バーゼル委」)は本日、『実効的なリスクデータ集計とリスク報告に関する諸原則』と題する市中協議文書を公表した。

2007 年に始まった金融危機では、グローバルにシステム上重要な銀行(いわゆる G-SIBs)を含む多くの銀行において、リスク・エクスポージャーを包括的な形で迅速に集計できないということが露呈した。すなわち、銀行はリスクに関する意思決定をタイムリーに行うことが著しく困難となったため、個々の銀行や金融システム全体の安定にさまざまな悪影響をもたらす結果となった。

本日公表した諸原則は、銀行のリスク・データ集計能力やリスク報告実務を強化することを企図した提案である。銀行、とりわけ G-SIBs のリスク管理能力は、これらの諸原則を実施していくことで強化され、危機への対応力が向上する。バーゼル委議長で、スウェーデンの中央銀行であるリクスバンク総裁のステファン・イングベス氏は「これらの提案は銀行のリスク管理能力の向上に向けた重要な一歩であり、G-SIBs の破綻処理の実現性を高めることを通じて、納税者が負担を被る可能性を軽減するものである」と述べている。

G-SIBs は、遅くとも2016年初までにこれらの諸原則を完全な形で実施することが求められる。また、バーゼル委は、これらの諸原則は銀行の規模・特性・複雑性の程度に応じて、幅広い銀行に適用できるものと考えている。

当市中協議文書に対するコメントは、2012年9月28日までの間、baselcommittee@bis.org宛電子メールで受け付ける。または、the Secretariat of the Basel Committee on Banking Supervision, Bank for International Settlements, CH-4002 Basel, Switzerland 宛郵送でも受け付ける。全てのコメントは、コメント提供者が明示的に非公開を望まない限り、国際決済銀行のウェブサイトに公表される。